

火 力 反 対

火 電 だ よ り

昭和45年3月29日

創 刊 号

富士川町富士川火力発電所建設反対期成同盟会



東京電力富士川火力発電所の建設問題は、富士川町にとって町政史上かつてない重大事件に発展し公害から住民の健康と生活を守る一大町民運動として全町民の盛り上げる活動となり、富士市議会の二十項目承認と建設議決を一応阻止し現在県の調整段階となっているのが現状であります。

昨年三月二十九日未明の富士市議会議決事件以来、県においては、富士市を含む二市四町公害対策懇談会を発足したものの、正式会議が開かないまま七月十一日富士市は全員協議会で東電との二十項目を承認する態度に出たため、隣接一市四町の火力反対連絡協議会は、これに嚴重抗議を行ない、引続き今日に至る迄結束し反対運動を続けております。

既存公害による富士地区大気汚染は国の環境基準を上廻り、昨年三月B地区に指定されたのでありますが本年二月さらに基準が厳しくなりました。

町におきましては昨年来自動風向風速計を備え既設の亜硫酸ガス測定器等により科学的調査を行なう一方下葉原市原市、茨城県鹿島地区、三重県四日市市、尾鷲市などの公害先進地を調査するなど、積極的に公害対策と取り組んでおります。昨年十二月実施した第二回火力反対陳情の署名は、四八六三名に達し、去る二月二十八日県知事、県議事に三月五日には、内閣電発審議会、東京電力本社などに代表者が陳情し火力反対を強く訴えています。

今后とも町民各位のご協力をいただき町の将来と住民を公害から守るため全力をあげてこれに対処する覚悟であります。

期成同盟会だより発刊に当り一言申述べご挨拶とします。

東電富士川火力建設

反対期成同盟会

会長 富士川町長 中川 国 兵

四日市、尾鷲方面 公害視察のあらまし

日程第一日
昭和四十四年二月八日、役場前
五時出発

・四日市公害センター着九時四五
・三重県公害センター視察
・午後工場群視察(三宅氏案内)
・三浜小学校視察 保健室、その他
・三重県立医大附属病院に患者訪
問 参加者(一七名)

・議員
芦川守正 養武司 市川政男
斎藤六郎 高岡太郎
・役場
助役 大久保 久保田 池田
池田 渡辺

・農協
土橋利治 若月満作 渡辺久雄
望月峯雄 芦川清司
津に宿泊

日程第二日
・早朝に津市を出発尾鷲市に向う
・尾鷲市矢の浜農協に至る
・尾鷲財政の一端

交付税一、六〇〇万円誘致前
東邦石油固定資産税
四、〇〇〇万円
中電 七、〇〇〇万円
計 一一、〇〇〇万円の収入
差引、交付税は減税

四日市の公害

四日市はもとも紡績業のための港でしたが、昭和十三年に塩浜地区に海軍燃料廠が建設されました。この石油精製所がこの港の運命を定めたといつてよいでしょう。戦後三菱独占資本がそのあとに進入し昭和三〇年大規模な石油化学コンビナートの建設となったのです。四日市の亜硫酸ガス排出量は年間一三万トンと推定され約二千個の浅間山の噴煙に含まれるものと相当します。とくに四日市は東西五キロ南北一五キロの狭い地区に亜硫酸ガスが集中して放出されしかもコンビナートが市街地に浸入して市民の住宅を包囲するといった最悪の条件になり、ここにある四日市ゼンソクという公害病が発生するに至ったのです。

公害患者の実態

四日市が公害病患者の認定、医療費負担制度を設定したのは昭和四〇年五月であります。第一回の審査会で一八名が認定されました。内訳は肺気腫一〇名、気管支ゼンソク五名、慢性気管支炎三名でありました。さらに、一八名中一四

名が入院を要する重症患者でした。四日市市が公害病患者認定制度を設定するにあたっては、被害者住民の要求にもとづくものでありこれを支えた多くの人々の後押しの結果によるものであることを知らなければなりません。認定患者は年を追って増えつづけ、四三年三月では累計五七七名となり四三年三月の認定患者は三九九名。現在四四年、四四〇名である。事実上の患者は約十倍近いといわれています。特に公害病患者は乳幼児学童、高令者に多く、中学生以下の患者は一八三名に及び、中でも塩浜中学三年の南君枝さんが四二年十月二〇日気管支ゼンソクで死亡、次々に死亡した人は一八名にもなっています。

公害裁判

昭和四一年七月十日公害認定患者木平卯三郎さんはこの日の高濃度汚染の苦しさに自らの生命を断つという不幸な事態が生じました。木平さんの手記は公害対策のなまぬるさゼンソクの苦しみを訴えています。四日市市民のショックは大きく七月一四日抗議集会を開きました。この日本平さんの遺影を抱いた「公害患者を守る会」の副会長大谷さんが翌四二年六月一三日にまたも自らの生命を断つという事を誰が予期したでしょう。大谷さんの犠牲は患者の不安を一

きわ高め、もはや政府、自治体の対策を待っているには生命の保証されないことが明らかになったのです。けれども地域住民全体が自分達の権利を主張するための結束が弱く四日市市はそれをよいことにして公害患者の味方とはなりません。ここで心ある九名の公害患者は企業側の責任を追求し、この問題を広く人々に訴えるために勇気をふるって昭和四二年九月一日、塩浜第一コンビナート六社を相手どって津地方裁判所四日市支部へ訴状を提出しました。三重医大の吉田博士はじめ大勢の医師や弁護士がこの人々を支援して困難な公害裁判を闘っています。私達の逢ってきた藤田さんもその患者の一人であり、自分の苦しみを訴えるばかりではなく多数の公害患者のための闘いをも背負って荊の道をふみ出した人です。

毒された尾鷲市民

尾鷲の公害は発電所の排煙に含まれる亜硫酸ガスと降下煤塵、東邦石油の騒音と悪臭が主なものでした。

この公害を倍増させているのに地形と気象がありました。山に三方かこまれ、前だけ海であり、国内で有数の多雨地域だからです。

中電は36年から37年にかけて75万KWの発電を行い、一日三千トン、五千トンの重油を燃焼させ、百五〇トン以上の亜硫酸ガスを排出していた。東邦石油の悪臭に、市民は「犬猫もヘドを吐く」と説明しています。病弱な人は市内から避難しなければならなかった。降下煤塵は洗濯物に穴をあけた。トタンはくさり農作物は枯れた。美味で知られた魚介類も流出石油で市場価値を失ってしまいました。

市には、以前一億六千万円の交付税があった。中電、東邦石油から一億一千万円の税収があるようになる。交付税は五千万円に減り公害だけが残ったのです。

中電は新規に75万KWの増設を申請して来ましたが、今後は市民はだまされません。反対運動が今市内にまきおこっています。

「この尾鷲が昔のようになるとは、もう思っていない。しかし、これからの子供たちのために、これ以上悪くさせない、少しでも良くしたいのです。静岡のみなさんの火力反対運動も知っています。建設させたら終わりです。俺たちがよい例です・・・」市民は私達にこう訴えました。



年末総選挙、それに伴う富士市
首長選挙と東電火力問題も鳴りを
ひそめている。この問題について
それらの当事者が決してあきらめ
ていないというわけではない。私は
この点について二つの疑問を感じ
ている。

一つは総選挙、首長戦と各々勝
ちとるためにはこの問題にふれた
くない、ふれては不利だという考
えは、候補者も県も市もまた東電
も充分考えている。しかし選挙が
終わった時点で於て建設への動きが
出るのではないか、またもう一点は
おそらくあり得ないか、と思うが、
市長が退任前に県への地元首長と
しての態度をはっきり打ち出して
はいないか、という事である。

私達はそうした観点から年末一
農繁期の多忙の時ではあるが運動
を中断することなく続けたい、そ
の一つとして公害の実態調査をも
う一度しっかりやってこよう。」
ということ、四日市、市原両市
の調査を二班編成で実施した。
調査のようをいかいつまんで挙
げてみる。

四日市について

●公害センターの話によると、警
報発令は年、五、六回程度で夏場
(両期)に多いと云われているが
二〇キロメートル周円に公害は拡
がっている。

●三浜小学校については既報の通

りであるが特に耳鼻咽喉痛につ
いては標準校五〇％に六〇％に
対し二〇％と非常に多数の児童が
痛みを訴えている。

●ついで県立病院に公害認定患者
を訪れその実態をきいた。昭和三
五年コンビナート運転開始、三六
年一〇月頃よりボチボチ公害病の
発生をみた。当時五人も六人も一
緒に病院にかけこむ状態であった
この人の家は一家四名が認定患者
である。県や国では大気汚染は大
変改善された、P.Mも環境基準
より下廻ってきたといっているが
との質問に対し、「P.Mなど問
題にしていけない。私達は大体屋外
の状況を見るだけでガスの濃度が
わかる。夜は特にひどい。大臣や
関係者が来市する時は極端に変化
して少くなるのがわかる。」とい
っていた。今入院中の患者の中に
は病院から朝職場に行き動らいて
夕方病院に帰り、治療を続けてい
る患者も多い。病気の苦しみは
想像以上で、苦しみを通るこし
て失神してしまう状態だそうであ
る。

尾鷲地区について

●矢の浜の農家の人にきく。亜硫
酸ガスについては今研究中だ。こ
んなに被害があることがわかれば
建設について絶対反対すべきであ
った。今、区をあげて増設につい
て反対運動を起している。計も公

害対策室を設けてとりこんできた
増設については市がOKを出せば
すぐ踏切れるわけであるが、住民
の声をきいて市としてもOKを出
しかねている。

●地元対策協議会にきく。誘致当
時は市が豊かになり税金も安くな
るとの話で、矢の浜もよくなる
とあって賛成した。しかし運転が開
始されると全く反対。長崎で風洞
実験をし、それをそのままのみに
して建設したが、実際と実験と

は大違い。正面四五〇メートルの
山肌が、花崗岩に昔は苔が生えて
黒い岩肌だったのに、今は苔が枯
れて真白い肌が出ている。(我々
も確認)現実が何よりの証拠であ
る。そして最後に、昔の矢の浜に
返してもらいたい。今からでもお
そくはないから反対運動を続けて
これ以上増設はさせない。と結ん
で私達に「建設されたらおしまい
だ」という事を決して忘れないよう
に。」と強く叫んでいた。

公害調査報告

町議会議員

芦川 守 正

和四〇年人命、健康の問題だとし
て衛生部に公害課を設けて出発し
た。ここでは今まで全く公害のな
い所に急拡大工場群が出来、対策
が全くたないままに現状となっ
た。この地区の一番の汚染源は亜
硫酸ガスである。その影響範囲に
ついては工場の近くが一番ひどか
ったが煙突が高くなったので多少
汚染範囲が広がっている。他のガ
スとの相乗作用で一そうスモッグ
がひどくなっている。対策として
人家はなるべく遠隔地へ移転す
るよう指導している。高所の逆転層
に煙がかかって溜り、それが降っ
てきて環境基準を上廻り警報を出
したこともあるが見た所よりひど
くはない、と説明した。

●公害病として市原ゼンク等と
報道されているが多少他地区より
多いというだけでマスコミは大げ
さであるから信用出来ない。しか
し元来が石油コンビナートは亜硫
酸ガス発生がつきもので、原油を
輸入しそれを製精する過程で様々
な関連工業が密集するわけであ
るし危険である。重油から硫黄分
を脱硫する方法が確立していない
現在では当然亜硫酸ガスが発生す
るので、他に方法がないために高
煙突とばすというやり方をして
いるといった。五井火力では一五
〇メートルでは駄目で現在一八〇
メートルにしている。燃料を重油

から液化ガスに切りかえるという
方法も横浜の根岸において始めら
れている。

●五井農協組合長の話。住民自体
が公害に対する実態をつかんでい
ないというのが実態である。四一
年の梨の被害が非常にひどかった
ので会社側もこれを見とめ三〇〇
〇万円の見舞金という形で補償さ
れた。一つ一つの工場を調査する
と基準以外で問題はないようだが
多くの工場によって集積されるの
で非常に危険である。今住んでい
る所は公害もひどく買手が少ない
で安くしか売れず山手の非常に高
くなってきた土地を買ひ移転しつ
つあるのが現状である。市自身は
プラスでも直接の住民は非常に迷
惑、犠牲となっているのが実態で
ある。高煙突の効果は晴天無風の
日のみで雨天では通用しない。工
場設置の白羽の矢を立てられた以
上はどうにもならない。運命とし
て泣き寝入りの状態である。

以上が見たままきいたままのこ
とである。公害のあることは皆一
様に見られ不審の感を強くし
た。余程のことがない限り建設阻
止は中途ではむづかしい。建設さ
れたらおしまいだ。ということをも
胸にかみしめ調査報告とする。

●千葉県市原市の模様

●県の公害研究所にきく。県は昭

四日市及尾鷲市

公害視察の報告

農業会専務 土橋 利治

目的地四日市に着いたのは、十時ちょっと前であった。

市役所公害対策課を訪ねた処、課長不在との事で係長の案内で三重県公害センターを尋ねた。村田室長の説明をきく。気象状況については夏期南東、冬期北西の季節風が吹き被害の最も激甚の処は、磯津町で（戸数七〇〇戸）、当時年間平均汚染は磯津町〇・〇三四、三浜小〇・〇三四、南中学〇・〇五四 PPM であった。四日市市における一日の重油消費量は現在五八三五屯平均二・四の含硫重油である。現在の公害病認定患者は四四〇名で四〇〇名、前後を増減しているとのことであった。

火力発電所に於て現在使用されている重油は一・七の重油で公害軽減のために昨年度訪問の際よりも（昨年度二・二の重油）かなり低い重油を使用していた。なお警報が発令されると一・五の重油に全工場が切換える事になっているとの事であった。（警報は、〇・二 PPM 以上になると発令される）第三コンビナート建設については七社入る予定であるが地元の埋立反対を押し切って埋立は続行されている。市当局は、ここでは石油化

学が主体であるので公害の心配はないとのことであった。

南中学校に於ける測定値の高いのは距離は遠いが山を背負っているので気流の停滞によるものであると説明があった。なお高煙突に依る公害軽減の方法についてドーナツ現象が起こるといふ質問に対して（遠隔地七・八キロメートルの地点の濃度が煙突の近辺より高濃度になる）はつきりした回答が聞けなかった。

昼食後、三宅さん（若月議員の知人）の案内で市内の公害の実態の調査に出かけた。

三浜小学校が、公害指定校になっているとの事で案内をお願いした。各教室全部にわたり空気清浄器を取付けてある。なお汚染の時期が、五、六、七、八の四ヶ月が最も高いので窓を締切ることが出来ないでクーラーを同時に取付けてあった。公害に依る身体異常については扁桃腺炎二四、一、一、扁桃肥大二四と対照校と比較、極めて高い罹患率であった。児童の公害病指定患者は現在一七名であるとの事であった。高濃度の汚染ガスがくると症状としてくしゃみが出る。声がでない。悪臭に依って倒れる児童あり、保健室にベッドの用意があった。なお建物等腐蝕の度合は建築年数に比較して驚く程早かった。屋上に菓葉大に依

る金属腐蝕の試験が行なわれていた。汐浜小学校は、汚染が特にひどいので昨年ついに移転した。建物だけが残っていた。

三重県立大付病院に患者を尋ね、公害病の実態を調査した。磯津出身の藤田さんに病気を患して面会をお願いした。

氏の説明をきく。

昭和三五年頃コンビナートの操業を開始すると設備の不十分な工場より出る排気ガスに依り多くの罹患者が出現した。症状としては風邪のようで一気管支が侵され一発作がおこる。藤田さんは、閉塞性障害一慢性気管支炎と診断されている。現在公害認定患者は医療調査会に依る審査に依り認定されるがその数は四四〇名で潜在患者数は数十倍に達するといわれている。

認定を受けた患者は入院治療は無料であるが、家族の生活費の保障はない。これに対して会社側は至って冷淡であり、市の誘致に依り建設したので責任は市にあるといつて取りあつてくれない。

罹患率は、老人、幼児に高く、ガス濃度が高い時、発作が起り死ぬような苦しみ味わい失神状態となる。会社側は、ガスの放出を昼間を少くし公害センターの職員のない夜の九時頃から夜明けまで多量に放出する。大臣、国会議員等が視察にくる時はつとめて放出

を少なくしている。実情を県や市に陳情して親身になって相談のつてくれないので公害訴訟を患者九名が起した。政府も漸く腰をあげ施策を請じ始めるに至った。会社従業員等の公害病の場合は健康保険による診療を受けさせ公害病ということをつとめてかくすようにしている。

若い患者は、家族の生活保障まではないので、昼間稼いで夜だけ入院、また若い主婦は夜子どもの面倒をみるために家庭に帰るなど誠に悲惨なものである。

十一月八日、四日市視察終了後津市に一泊、九日尾鷲市の公害実態調査に赴いた。最初農家を訪問の予定であったが、矢の浜農業協同組合に組合長をたずね、公害の実態を聞くことにした。なお矢の浜地区公害対策協議会副会長南氏書記長塩崎氏委員北村氏等も農協に来てくたさり共々話を聞くことが出来た。

説明に依る昭和三十七年市が工業立市の計画を立て絶対無害とのことで誘致に賛成、三十九年に操業を開始した。東邦石油も同時に操業を開始した。

火力発電所の計画は一五〇万キロワットの発電をすることになっていたが、現在一、二号機による発電を七五万キロで三、四号機の七五万キロは地元の反対に依りス

トップされている。地元としては現在の公害が皆無にならない限り建設を認める訳にいかないと極めて強硬である。

東邦石油に於いても最初は、重油だけ分離するとの協定であったが、それ以上の仕事をしているとのことであった。

公害の実態。まづ悪臭と騒音と煤に依る被害である。火力発電所における使用重油について本年十月末迄二、三の重油を使用していたが、本年十一月一日より一・九の重油に切換えた。最初の説明によると煙突の高さ一二〇mで三〇mの風速で吹き上げるので四〇〇m以上に吹き上げるから近辺に一切害はないとのことであったが、操業と同時に煤が降り、植物の被害（葉に煤が落ちて穴があく）洗濯物等も煤の付着した部分は、穴があく等の被害があった。その接渉の結果、集塵機の取付けを迫ったが結果は煤の大きさは少なくなつたが被害距離は一〇〇〇m付近にまで達し植物等に被害を出し洗濯物にも被害を出した。悪臭に依る被害については、気が悪くなくなつて倒れるものも出る程で、人間ばかりではなく、犬猫も吐気を催して路上にのたうつという有様である。騒音については、最初一〇〇ホーン程度であったが、現在五三ホーン程度である。地元の要請

に依る集塵機の取付けも本年漸く着工している程度である。昨年同地を訪問した際、既に取付けてあるとの事であったが聞くところとは大違ひであった。当地における測定器は六ヶ所であるが今迄県の管理で明確に内容はわかっていないが、本年より市の管理となつた本年三月、〇、一七PPMを記録した。

人体に及ぼす影響については、悪臭のため、からだがかぶれる。気が悪くなつて倒れる、風邪をひくと咳が止まらない等である。

東邦石油も増設計画を通産省に提出したが、地元民の強硬な反対で通産省は増設計画を却下した。尾鷲市の対策協議会の実態は部落単位の協議会が設けられている。矢の浜、向井、中川、に対策協議会があり、外に自治会で五ヶ所六ヶ所の自治会が反対運動をしている。

昨年私達が、公害調査のため和歌山、三重県を視察した時、発電所を主体に調査したがその時に於ける実感としては被害の程度は左程でないと思つたが実際被害を受けている人に直接会つてみると意外に被害の多いことに驚いたわけである。

植物の被害については昨年千葉農業試験場を尋ねた際、松岡先生より受けた知識に依つて眼に見え

ないいろいろな被害のあることを知らされた。呼吸作用、同化作用に及ぼす影響等知らずのうちに生長に大きな害が出来る。また葉かけ等によるガスとの化学作用の弊害などまだ知らされない部分が沢山あることを知つた。これらの事は、まだ農民や指導者に正しく認識されていない様な気がした。見ただけでもこれは、と思う症状が植物に出ていたが、何ら問題にしていないようだった。

矢の浜地区に於ける対策協議会が被害が軽度のうちに発足を見、これ以上の公害を絶対許さないという決意の許に強固な団結を組んでいる事は誠に敬服に値する。団結の力こそ誠に偉大なものであると痛感した次第であります。

悔を末代に残すな

農業会理事 渡 辺 久 雄

十時三十分、ヘロペロと赤い炎の立つた不気味な悪臭さえ感ずる四日市に到着した。

市役所係員の案内にて三重県公害センターを視察、テレメータ受信装置で速刻亜硫酸ガスの排出量が記録される様になっていたが、それに対する策は何となくお役所的な感じがした。

そこを出て、前から連絡してあつたA氏の案内にて巨大な原油タ

ンクの立ち並ぶ埋立地、中電火力関連産業の工場群等を一同する。四日市近郊の市民の憩の場であつた海水浴場も油の海と化してしまつていた。

幸いA氏の紹介にて公害病患者にも病院で面会することができ、血の出るような話をきくことができた。公害病認定者は、入院費は、全額県及び市で負担するが生活の保障はなく、家族の生活苦のため、こつそり病院を抜け出して働かに行く者も多いとのこと、またゼンソクの発作の苦しきは話し

ようもない苦しみで、その患者も六十五才とのことだったが、七十才以上の老人のように見受けられ闘病生活の苦しさが察せられた。次に四日市でも、一番被害のひどい三浜小学校を見学した。校舍は立派な鉄筋二階建てで各室には空気清浄器が取付けてあり、ガスの排出量の多い時は、校庭で運動している子ども達も全部教室に入り、窓は閉め、暑い夏でも密閉して勉強するそうだ。ガス排出量の多い時は目が痛く、呼吸も困難とのこと(教頭の話)工場群に向つた側の左側の鉄柵はほとんどさび雨ドイ等は、役にたたないようになつていた。

四日市と川をはさんだ磯津町も一周した。火力の出来ない前にはのどかな漁村だった様だが、今で

は魚の獲れないさびれた家並となり活気がなかった。

九日早朝、尾鷲町にむかつた。昨夜宿泊した津よりの里程もなかなかだった。幾つかの山を越し眼下に、四日市で見た赤白の不気味な煙突よりふんわりとガスを排出し、あたり一面けむっている下に尾鷲の町がみえた。

この町は、三方山に囲まれた静かな風光明媚な所だったが、三十七年東邦石油が進出し町議会でもよい財源を得たとばかりに全員協議会にて満場一致可決された。今となって悔を末代に残すことをしでかしてしまつたと農協組合長が話してくれた。この人は当時も現在も議員の一人である。

期成同盟会の面々とも会談することが出来た。火力からですすずで洗濯物はおろかトタン屋根まで穴が出来てしまふ。集塵器など設置してあるときいていたが、いまだに設置してなく工場の誠意のなさを憤慨して居り、同盟会の人達も異口同音に工場が出来てしまつたらもう駄目ですよという言葉だつた。

四日市尾鷲の見学で公害の恐ろしさを目で見、また公害に悩む人々に聞き、押しよせる公害を町民一体となつて排除し、将来共住みよい町にするよう突き進むべきだという思いをあらたにした。

視察ごぼれ話

五時出発というのにまだ一人足りない。やがて日頃篤農家のMさん、ネクタイ片手に手拭下げてバスに駆けつけ、枕下に用意してあつた愛妻手造りの弁当も忘れたとは。緊張しすぎて夜半に目覚め、ちよつと一眠りがこんどは深寝まるで子供の遠足。

某公害所長の談話に一せいに手帖を開きメモとる様はまるでベテラン記者の気魄。富士川魂をみよ。



視察と張切つてバスのタイヤはパンパン。おかげで腰を痛めた御老体もあつたとか。

深夜まで視察、懇談で疲れて帰る御宿は宿泊料二五〇円也と三〇〇円也。フトンとシートを自分で敷き、湯も汚れているし辺りの寝しずまつてに遠慮して公害のほこりを被つたまま黙々と御寝。

翌一日は鹿島の荒地を強行軍。唯一の御馳走は、千葉の朝飯食堂の豚汁だった。

公害を考える

町議會議員 斎藤六郎

火力建設反対の声巷に満つ。現代社会の発展と進歩の陰に咲いた仇花であり、要約するとひずみの露呈であると考えられる。この問題の解決こそ現在為政者の課せられた最大な問題かと思う。

省みて我々明治初年より百年の過程を辿って見るのも無駄ではないと考える。

日本国のこれまでの繁栄は水力発電の開発により飛躍的に発展したといつても過言ではなかったと思う。電気料、電力料の低廉な供給は工業の発展は基よりあらゆる産業に活を入れ繁栄の基礎を造つたものとしてその恩恵の偉大なる事に思いをはせるべきだと信ずる。敗戦以来平和産業に全勢力を傾けた日本産業は道路に交通機関に平和産業に世界先進国を凌駕して躍進の一途を辿る時、電力事情の日に日に悪化するを苦慮され、火力発電、原子力発電の開発となりその原子力発電はさておき火力発電も各地にその偉容を誇るものですが、建設に伴い、不幸にも亜硫酸ガスが公害となり既存公害と相まってロンドン市に起こった様な災害から逃れるべく地域住民の反対の声には卒直に耳を傾ける価値

あるものである。明治百年をこえた今日、公害なき産業、公害なき発電所を建設すべきで此の問題を解決してこそ現代社会に課せられた最大なる課題かと考えます。その方法として公害のない島等活用して石油コンビナートの建設に初まり、重油使用の場合、最低硫酸分の重油とする。はたまた脱硫酸装置の研究開発、アラスカ産のガス使用に切り換える等世の中は今原子力時代に移行を初めたといつても過言ではない時代、四日市ゼンソク、富士ゼンソクと、その発生源である低硫酸化、要約すると燃料革命の時代に入った事を痛感する。我々が覚えて以来、鉄の車輪からゴムの車輪に変わったように前向きな姿勢で官民一致協力して此の問題解決に全力を傾倒すべき時に来た感が深い。公害のない電力供給に格段の創意と叡知を動員して公害のない発電所建設に努力すべきだと考える。

日本地図を掲げて過疎地帯と過疎地帯とに分れるその過疎地帯に原子力発電所を建設したらなどと夢のようなことを実現の上に、工業及び農業、その他の産業の発展をおもう。またたとえわずかでも公害にまたた公害病にて療養する方々に温い手をさしのべられるよう、公害のない発電所時代に至るまでのひずみにおののく人々の救出に、国も県も町も共ども立ち上るべき時代と考え、駄文を草した次第である



公害地の様子

町議會議員 市川政男

四日市市役所ではうまく用件がのみこめないで、若月議員の友人(病院入院中の知り合いの人)に電話したところ早速来てくれて公害の話をして親切に案内をしてくれた。被害のひどい所、ひどい所と廻った。

三浜小学校を見たが、屋上の鉄柵や格子は塗装はすっかりしているが中味はすっかり腐蝕している手のつけられない有様なのは驚いた。また小学校の子どもの体格も全国の平均を下まわる下位であることがグラフにあらわれており子ども達も小学校の時から精神的打撃をうけて公害研究をしていると思えば可哀想で、無邪気な子どもにしてやりたいと思う親心はど

も同じである。せひとも公害より今すぐ子どもを守るべきことが親の急務であることが真先にくる

公害地に住む人は建築から何から何まで毎日の生活に到るまで気苦労して働かなければならない。今年になり、南米に移民した家族もあるとの事だった。四日市の公害の病人は、五、六〇〇人はあるとの事ですが、四百三十人余と発表してあるのも世の中の常、何ていうか誤報としかいえない数である。実際発表の人数をはるかに上廻る人数が公害ゼンソクに悩んでいることを忘れてはならない。悪く言えば会社側に買収された発表と言いたくなってくる。また一時的な税金の事のみを考えて火力発電を受け入れたからその間違いで、後で取り返しのつかなくならぬよう、自治体はよく考えて正しい方向に進むべきであります。富士川町は百害あって一利なしの言葉通りでありますから絶対火力を反対して最後の最後まで斗わねばなるまいと思いつつ、議員会館に泊り床につく。

ある朝八時出発、尾鷲に向い午前十時三十分矢浜農協を尋ねることができた。近所の人の親切で組合長及び公害対策委員の役員の方々と面会することができ、自分達の本意のある質問に応じってくれた。組合長役員三名の尾鷲の現在までの状況を聞くことができた。どこへいっても、会社側の言う通りにはゆかず公害が大きく現れて

いることを聞かされた。
トタン屋根は三年目に塗りかえしなければならぬ。千メートル以内では洗濯物は干せない。亜硫酸ガスは大猫でも風向きのある時は食物を吐きながら死んだという位ひどいものだそう。一頭や二頭ではなく、五、六頭も死んだそうである。大猫の次は人間である。地元の人、悪いものを誘致してしまいましたといっている。山の地域は(山林)まだ結果が出ていないので何ともいえないが、みかん山も今までの肥料だけでは駄目で、余計のものをやっているとの事。今年の三月には咳やたんの出る人も多くのをやられて皆が公害の恐ろしさを身にしみて感じました。今では市議会もこぞって増設には反対していますとの事です。以上矢浜農協の組合長他二人の役員の方々のお話しをお伝えして視察の報告とします。

僕の目で見えた公害地

農協青年部 芦川清司

うわさに高い大気汚染地区四日市とはどんな所だろうか……。青年部としては今年柑橘視察をやめて千葉県の姉ヶ崎火力の市原に九月に行ってきましたがその市原と比べて、また富士市、富士川町に比べると……マイクロボバスに揺ら

れながら考えました。

四日市に入り、市の公害課の人に公害研究センターまで案内していただきましたが、その市の職員が先ず言った言葉が「四日市にきて皆さん思ったより公害のないのに驚いたでしょう」でした。私はこの言葉を聞いて、ハハ……この職員は自分の町、市を公害の市と言われたくないのだな、また市としてそれなりに公害問題に積極的にとり組んでいるのかな？と思っただけですが、市側、公害研究所の人達の話しと一般市民の声も聞いてみるとその中には大分差があるように思えました。四日市で気のついた点をあげてみます。

一、公害センターの話の中で市内の中心部にある三浜小学校より、少し離れた南中学校の方が汚染度が高い。南中学校には背後に山がある。富士川町とよく似た地形である。

テレメーターの平均を見ると、四日市と富士川町ではほとんど汚染度が変わらない。

一、市内の中心部にある三浜小学校には各教室に空気清浄装置がつけられている。保健室には冷暖房もつけられている。窓を夏でも開放出来ないとのことだ。屋上の鉄枠なども、建築して十年はかりなのにポロポロに腐蝕している。

一、公害認定患者の話では、生活

保護を受けている人が多いとのことだった。これは何を意味しているのか？患者には補償ではなく見舞金がかかるが生活費までは保障はできず、困窮しているとのことだった。患者は老人と子どもがひじょうに多いということだ。

一、昼より夜の方が汚染度が高いといわれている。夜市内をまわってみたが、悪臭、煙、話よりもひどく、実際にきてみてびっくりする程だった。タクシートの運転手など毎日市内を回っているが夜十二時をすぎるとなんと息苦しくなってくるという。

このようにして市内の一般市民の声を聞き夜は夜で目に見、からだで感じてくると、とても四日市などに住みたくないと思う。四日市の二の舞を踏むなというのも当然だと思った。二日目の九日は三重県津より尾鷲まで直行、尾鷲に入る所で山の峠をこし、火力発電所を見おろせば、朝なので火力から出ている煙が尾鷲の町を包んでいた。まわりはすっきり山に囲まれている。よくこんな所に火力の建設を許したなと誰でも思うことでしょう。建設の時、大工場ができれば市も裕福になり市民も今の三万三千人から倍、或いは十万都市にもなろうとか、税金も今の半分になるとか、煙突を百二十米にすれば煙は山をこえてはるか遠く

へ行ってしまふから公害は何もない。とよい話ばかりしていたそうです。実際火力ができてからは、洗濯物に穴があいたら、トタン屋根がさびたりして補償を受けたそうです。

またみかん園などは酸性土壌となり、石灰肥料も多量に入れなければならないといっていました。私達が想像していたとおりです。前に火力誘致をした人達も今では無公害を願い増設反対を叫んで

京葉工業地帯及び鹿島視察

京葉工業地帯

京葉臨海工業地帯は、千葉県浦安町から東京湾沿いに富津町に至る六市四町にわたって約七六キロメートルの海面を埋め立てて工場を建設しています。中でも浦安町から千葉市原市にかけて約五百社が進出し、真に開発してほしい不毛な地帯はさげられ、政治経済の中心に近い、交通の便利なところに集中、住民の健康などは全く忘れられております。調査する所によれば五井、姉ヶ崎地区から排出される工場の亜硫酸ガスだけでも四日市の六倍と推定されており現在操業中の会社の煙突も、京葉

います。政党などにこだわらず町ぐるみ、市ぐるみの運動になっていくそうです。私達には絶対富士川火力を許すなと励ましてくれました。最後に、火力ができて一つよいことがある、日夜廃ガスを燃やすため街が明るくなって夜道が怖くないこととドロボーがなくなつたことだと笑って話していました。四日市、尾鷲、また姉ヶ崎と見学してますます富士川火力反対の想いを強くしました。

かしこでも県や市がなかなか動いてくれず住民は難渋しています。市原市下前地区の農婦長岡きみさん三七才は昭和四二年一月三日公害を苦にして自殺しました。工場進出のため御主人は農業をやめ、きみさんの肩に田畑のことがかかっていた上に、もともと余り丈夫でない人でした。公害センターとは即断しかねますが、死の直前二日間のぐずつた天気のため亜硫酸ガス濃度は〇・三PPMをじつに六回も越した日でした。

また千葉市の主婦松川たまさん60才は慢性ゼンソクで悩んでいます。常日頃「空気のきれいな所に任みたい」ともらしていたそうです。四三年一月二日、生活苦の中で生命を断りました。松川さんの住いは長岡さん同様千葉市で最も空気の汚染された今井地区で千葉火力に向つた雨戸は一年中開けられることがあります。

千葉県はどのように人を不幸におとし入れる公害の発生源をかかえている割にはまだ住民の意識は充分といえません。市原市の亜硫酸ガスは昭和四七年には四四年の三倍になるといわれています。スモッグの立ちこめた屋な暗い空のあちこちに火力発電の気味悪い赤い炎が燃えている様をみる時、私達の火力建設阻止の想いは一そう強かたまるのでした。

視察の日程

日程第一日

・昭和四十四年十一月十四日五時出発
 木更津着九時二五分

・市原市五井「県立公害研究所」

・午後「千葉農業センター」

・市原市「五井農協」組合長面談

・夜「五井、玉前部落懇談会」

・深更千葉市に戻り宿泊

参加者（一八名）

・議員

芦川守正 鈴木富治 佐野義策

古川喜代松 望月好勤 斎藤昌巳

太田義雄

・役場

町長 大久保 池田 加藤

浦野 渡辺

・農協

浦田富雄 森中重雄 養正巳

塩川光則

・守る会 芦川照江

日程第二日（十一月十五日）

・早朝千葉出発 成田、佐原、水郷等を車窓に見、利根川を渡って茨城県に至る。

・鹿島町をすぎ荒漠たる不毛の原野ともいふべき地帯凡そ二〇軒を走行す。海岸に新設港あり、重工業団地の基礎工事始まり、中に東電火力のみ完成して操業

・夜九時帰着。

「保障と補償」

町議会議員 鈴木富治

市原市工業地帯は、臨海埋立地域で、建設当時は漁業補償が重点的であった。農業補償はその後の被害に驚いて、今日ようやく農民が立ち上ったような状態である。すでに被害の対策に立ちおくれた現状ではただ会社の施設の改善と補償に重みをかけるだけで安全のための保障は何一つない。一番被害の多い梨は収穫皆無、また住民も大気汚染で移転も余議ないという状態である。五井農協の組合長の談では、すでに農業それ自体をさえ断念してしまっているような説明であった。富士川町の場合も建設されれば当然五井周辺のテツ踏むこととなるので、この際あくまで建設に反対すべきであります

農業公害の報告

部農会長 塩川元則

第一の視察地、市原の公害研究所の説明では、むしろ企業側に有利の様な話でしたが、これと第二の視察地農業センターの松岡技師の説明及び第三の五井農協組合長の談、更に玉前の住民の話と大分相違がある様でした。これらの詳しい報告は別にあると思えますの

で私は部農会の代表として特に農業公害についてそれぞれの説明と感想を報告させていただきたいと思えます。

大気汚染の場合、一年生作物では翌年の影響はないが密柑等、永年作物は一度被害を受けると共に作物の生長リズムが狂ってしまいそのまま翌年まで持ち越すため影響が大であるということが第一の問題点。第二に亜硫酸ガスとボルドー液は互いに害を助長する相乗作用を起こす。第三に受粉期の亜硫酸ガスは結実を阻害する。またそれ以後の果実の肥大を妨げる。次にフッ化水素と亜硫酸ガスはカリフォルニア大学の唯一のデータ

ーによると複合被害があるということである。工場より二キロ四キロ範囲が甚大な被害で次第に六キロ一〇キロまで被害が現われてきたとのこと。高煙突にしたためにドーナツ現象をおこし速地に被害が現れてきた結果である。フッ化水素の害は植物の葉緑素を破壊し、亜硫酸ガスは植物の組織を破壊する。葉の傷み方に少し差がある。スプリングクラウ散水とフッ化水素との関係は日下研究中とのこと。気象としては霧の発生時もののかかる時などが悪い。一度公害を受ければ植物の生長リズムが狂るうということが他の物の被害とは違う所である。

次に私の関心事であった補償問題では我々の方とくらべて何ら進歩していなかった。前に新聞で知った昭和電工の改作作業中のフッ化水素漏洩事件の見舞金交付は尿素農業の無償配布だけで企業側は外観は美しく無公害とみせかけ、被害の出た時だけ低姿勢をとるといった態度、農民もまた案外にルーズで、公害運動も革新議員が中心人物であった。玉前部落の人々の座談会で開業医の方が大気汚染が人体に悪影響のあることを話しておられたが、ゼンソクで亡くなられた方が必ずしも公害だけが原因だと言明出来る段階ではない。といわれていた。

公害視察の感想

養正巳

一、所長さんは柔和で人あたりの良い人だが話をよく聞いているうちに、やはり千葉県庁の指揮下に入っている、ある程度言動は規制されていると思えました。すべて公開で秘密はないと言っているがうのみにしてできないと感じました。

二、海岸埋立地、延々四十里に及ぶ、しかも公害の憂いの多分にある企業群を持つ千葉県としては研究人員も少ない。厚生省、農林省としてもっと力を入れてはどうかと思われる。

三、あの霧の立ちこめたようなスモッグの中には亜硫酸ガスは僅かだという市の偽りも甚しい。研究所前の製畑は収穫なきために草だらけのまま放置してあるではないか。

一、フッ化水素について昭和電工ではその煙害を低姿勢に出て素直に認めたと。徴々たるものであったが肥料、農薬を無料で農民

にあたえ、補償金を支払った由、この点浦原軽金は冷酷で薄情である。我々農民は脛起すべきであると感じた。

二、市原でも住民の公害に対する知識が非常に足りないと言ったが我が富士川町でも油断することなく公害知識を普及して頂きたい。

三、地面について。工場附近は交通の便がよいにもかかわらず地価は安く、不便で今まで価値のなかった地方が、工場から遠隔ということで、二倍も高いという。農民の不利はますます莫大である。

四、いろ／＼の面で泣寝入りしている人々の多いことを組合長も認めていた。

鹿島工業団地について

推定するに、沼津、富士を含んだ様な広大な所、畑は不毛な砂丘地帯の所々に、見渡す限り粗悪な湿地、しかも太平洋に突き出し、風はほとんど海に向かって吹くという。よくぞここを工業地帯に開発したものだ。是非共ここで何千万キロでも発電してほしいものだ。石油会社の大メーカーが皆陣取っていた。

三島の人造も沼津の人造もよく公害を追い払った。富士地区、周辺の一市四町も、沼津、三島に負けず、火力コンビナートを追っばらいたいと痛感する。鹿島にくらべたら富士の五貫島などは猫の額は

どの所である。運動を拡げるために住民の意識を高め町にまでゆきわたるように、町当局の広報活動を期待したい。

千葉県方面の公害視察

町議会議員 望月 好 勃

一、木更津より千葉市に至る間、海はかすんで見え、太陽は晴れているのに牆で青空は見えず、誠にスモッグの恐ろしさを眼のあたりに見、今更ながら恐怖を感じざるを得なかった。

スモッグと亜硫酸ガスとは直接関係なしとはいへども火力発電所ある所は必ず関連産業あり他工業あり、従って多種の排出物によりスモッグとなる。富士川火力の場合も、富士川河川敷にはぼう大な土地ありコンビナートは必至である。空気が汚れ洗濯物は汚れ、日光浴はできず、これで健康に害なしと言えるでしょうか。恐らく日頃良い環境にある私共はたちまち病気になるでしょう。火力発電所ある所は亜硫酸ガス、スモッグは避けられぬ事を痛感した。

二、市原市の特別工業施設地帯制度の恐ろしき、即ち既設工業地帯の隣地を企業の性格によりA、Bとの二つに区分し、地価を一〇三〇〇円と一〇八〇〇円に定めてあ

る。結局は公害の為住宅として利用価値はなくなり、さりとて企業としても高価な用地では立地できず、従って特工地帯として一括、適正な地価で誘致せざるを得ない土地所有者としては打撃大である。従って富士川火力の場合、地元はもちろん、隣接市、町の地価に影響あることは必至である。

三、茨城県鹿嶋を見て、東電が富士川火力を本年は見送り電力急迫から急拠此の地に百万キロ増設に着手した処である。見渡す限り広野でしかも未開地である。ちょうど、基礎工事中です。関連企業が数社工事に着手しており、私共も、火力ある所は必ず関連企業ある事を知った。またこんな広大な適地があるのにどうして狭い富士市に建設するのかと理解に苦しむざるを得ない。従って富士市以外に適地はいくらでもある、ということ。しかし新聞等で見るとこの広大な鹿嶋でも公害が叫ばれているという事です。私共が適地ではないかと思っている所でも心あるものは公害を叫んでいます。これらの事を考える時、富士川火力など全く問題外である、ということ。これを強調せざるを得ません。あの広大な鹿嶋でも公害はおこるいわんやこの住宅密集する富士市においてをや。以上報告の一端といたします。

千葉市郊外の浅山に入った閑静な岡の懸立農業センターに辿りつき、松岡技師の出迎えを受けた時心からはっとした。この気持をスモッグに閉された市原市五井の工業地帯から抜け出し、やっと心身に人間の故郷を取り戻した安堵感といったら大げさだろうか。優しい自然とおのずからな稔りの中にある人間らしい技術者松岡技師は富士川町としても初対面でなく、フッ化水素の煙害問題で御指導をいただいている方である。そのせいか地味なお話の中にも何か癒やされてゆく思いを感じた。そして同時に先程立ち寄ってきた五井の県立公害研究所を思い浮べずにはいられなかった。公害実態を探知し、計量し、報知するこの科学のとりでは本当は人間の創り出した最新の生命の防御装置である筈だ。テレメーターは刻々に点滅して報知する。しかし所長の談話は、終始、市原の公害がさほどのものではないと力説し、その上「私達の立場は純科学的な、政治から中立している立場です」と住民との結びつきのないことを弁解する。今日、人間は無論のこと日光、空気水といった大自然さえ政治や企業から中立することなど許されもし

公害地の人々

いのちと生活を守る会
芦川 照江

ない事態ではないか。この所長ばかりではなく、こういう形の弁明をどこかでたびたび聞いたような気がする。頭痛をこらえている私は、無縁のものにさえ感じられる計器の傍に、黙々と白衣の背をみせていた若い技師達の胸にせめて人間の生命を導ぶ赤い灯が点滅してほしいことを祈って立ち去ってきたのだ。

農業センターで松岡技師と共に私達を迎えてくれた人に北野さん達千葉大医学部の学生さんと高校の先生井下田さんがおられた。北野さん達は今年の夏富士川町に煙害についての勉強に一〇人ばかりでこられた時、私達と情報や資料の交換をし合った人達だ。私達はこの人達と再び市原市五井農協に赴き組合長の談話をきいた。

時代の激流の中をなんとかして乗り切ろうとするなかなか精力的なタイプの組合長、しかしその談話を要約すれば、農業を失ってしまった農協の経営の血路を金融機関としての転生に見出している様子であった。雄弁なその談話が終つての帰路、「農協もこうなっておしまいだ」と一言私達の組合長がつぶやいた。五井農協の新装ビルは一種の貸しビルのように市

役所などに部屋を貸しその経営は近代的だがもはや土の香は失なわれてしまつて微塵も匂わない。

夜は北野さん達の骨折りを玉前部落の懇談会に出かけた。町会長の時田さん他主婦の方々、市議會議員、浜村医師、学生諸君。「千葉県の公害」という立派なパンフレットの書手の一人である井下田さんの司会で玉前地区及び市原市の公害状況や斗争の生い立ち、富士川町の公害斗争の歴史、特に軽金との補償問題其他が語られた補償について語る位農民にとって悲しいことはない。予防斗争には希望や前途があるが、補償斗争は損なわれた農業の挽歌である。半農らしいこのあたりの主婦が自家用野菜の里芋や葱類などの被害は主要産物としての梨の被害のように、補償の対象になりにくいし農家の内部の経済の面からその生活が崩されてゆくという訴えをしていた。玉前部落で学生達が一戸毎に記入してもらっている公害日記などの資料がゆくゆくは斗争のために役立つだろうが補償斗争ほど空しいものはない。農民の手に残るものは荒廃だけである。

浜村医師は開業医の立場から黙々と損なわれてゆく住民の健康を監視している。がっちりとした勇敢な感じのこの医師を玉前部落の人々が唯一の頼りにしなければな

らない時期は早晩にこよう。養老川という川のへりにある玉前はちようど四日市磯津のように煙が水面に冷やされて下降しやすいい条件にある。半農であるが故に富士川町程切迫感を持っていないこの人々が作物よりも早く健康を害される日のくることは必定であろう。学童の検診は千葉大学の協力によって度々行なわれていても既に公害を出しつつある工業地帯は広大な面積である。私は時田町会長の一見静かな悟りの人といった感じ

四日市で逢った人たち

町議會議員 斎藤 昌 巳

市役所では、我われ富士川町の一団を、まるで平和な四日市をかき乱すためにきたかのような応対だった。係員は私達を県立公害センターに案内すると、そそくさに姿を消してしまった。その彼は、「ここも皆さんが想像していたよりきれいでしよう」といつてのけたのだ。

公害センターの次長も「この連中は一体何しにきたんだ」といった表情だった。高岡助役が来訪の目的を告げると、やれやれ、またか、とテレメーターの前へ私達を連れていった。彼も四日市では大気汚染公害は過去のものであるかのような説明をした。市役所の係

が十字架を負って苦しんだ人の瘦身を思わせて何となく胸をつかれた。静かで浄よらかな心の故に公害斗争を行なうのか。公害斗争という苦しい運動がこの人をこんなにかよらかな人にしてしまったのか。話し方も淡々とおごらず事態を見すえている語り口で「富士川町自治体と住民と扶け合い、一つの目的に向って運動を盛り上げておられる姿が私には一番羨ましく印象的でした」と結んだのだった。

員にしても、公害センターの次長にしても、市民の生活と健康を守るための公務員である以上、その任務は明確なのに、「私達はどちらにも偏しない中立的立場です」といつて結局は加害者の代弁者になっていく。自分も一個の住民として被害を受けているのに、地位や肩書きのために権力者をおそれ知らず知らず加害者の立場に立つてしまっている人びとだ。公害の実態を知るにつけて私達はこういう人びとを見分けることが出来るようになった。

三宅さんは四日市の住民でありコンビナートの真只中に囲まれて住んでいる。内臓疾患のため若月

議長と同じ病室で療養されていたが議長の公害を案ずる気持に動かされて何かと便宜をはかって下さった。今度の視察が成功したのも三宅さんに負うところ大である。私達は三重医大附属病院で院長の許可がなかったため入室を断わられた。その時病室のドアが空いて、小柄な老人が出て来た。病み疲れた体をひきずるようにして廊下を歩いてくる。それが藤田さんだった。白髪頭、筋の浮いた首、深いしわ、げっそりした顔、しかし目だけは光っている。三宅さんに紹介してもらい、公害病に毒された四日市の苦しみをさくことができた。

石油コンビナートを持ってきたわけです。昭和三四年に。それから工事ははじまって運転したのが三五年頃からです。その時分は公害の公の字も考えてみたことがなかったんです。それでもう私らの町は向うの磯津町ですが、まあ一番汚染度が高い方なんです。いつも風邪気味で、それでどうもおかしいなということ。医者にちよいちよい行ってみるんですけど、まあ気管支がどうのこうのゆうて、冬にかかるともう時間的でもなくして、その日の風の向きとものによつて発作が起こるわけですね。それでまあ二年間は私等年も若いし酒飲んで寝たことです。がまんしとったわけですが、とうとう症状がその悪化しとつてきて、それでまあ村のあちこちで同じ病人が大部でできます。F、同じ症状で。それで病院へとび込んでみるとわれもわれもやというので五人も六人も一緒になるわけですわ。こりやいっぺん、おかしなということ。この病院へ来て検診してもらったわけですがそれから丁度三八年の一〇月の二日ほどにアンケートをとりました。夜何時に発作が起きて何時におさまったという統計をとつてずつと書いておいたわけですね。そして、昭和三九年の一月に私の病院から産業医学研究所に衛生学で

藤田さんは

訴える

(録音より)

●何年頃からこういう病気が多へなつたんですか。

F、だいたいコンビナートができから。昭和三〇年に四日市市長が、前市長吉田かつ太郎かな、その方がまあ全国かけずりまわって

その方達に検診していただいて、それで丁度その時はすでに慢性気管支炎閉塞障害と診断されたわけで三十九年の二月五日に私ここに入院したんですが――。

●それからずっとですか。

F、え、三十九年の二月五日、それは県が医療費を負担してくれたわけですがね。それが二月五日から三月三十一日までで打ち切ったわけです。それでこれではなかなか直る病氣やない。これはなんとかせにゃいかん。先生方に骨おって

いただいた市の方へ願ったわけですが、それで平田市長もなくなられたんですけど、この方が住民を苦しめてはとくわけにはいかんといつて市会にはかって、そしてしたわけですね。まあ反対もそうとうあったらしいけれども住民を苦しめるわけにはいかんから、これは医療費負担やなくて御見舞の印として。あの――医療費を払おうやないかということでその後ずっとつづけて今でもつづけてもらってるわけです。それはまあ変らずに市長ともずっと継続してるところなんですけれど。結局一家の柱が倒れて家族がどうやって生活していくか、それはまあ生活保護とかいろいろな方向で県知事、市長さんにお願いしたんですけど。もういい医療費するだけで市はとも手が届かなくてつづをむいてい

るし県知事は県知事でもううやみやでにげてしまう。それに対してまたこのコンピュータの方も我々に対してなんらの誠意を見せてくれなかったわけですね。

●それで現在も会社は無頓着でいるんですか。

F、え、無頓着です。むしろ企業も関係してほしいという状態でも我々近くの住民そのものは本当の谷間で泣き寝入りという状態ですわな。

昭和四〇年から医療審査会というのができた。毎週なにして、現在四四〇人で最高ですわな。今までにかつてないデータがでて入院患者が四〇人、そのあとみんな通院患者なんですわ。通院患者の医療費は無料にしてくれるわけですね。

●認定患者にならないとそういう医療審査会で認めてもらわないと、そういうものがでないですわ。

F、そうですね、そうです。

●四四〇人といっているのは今までふえていっているんですか。

F、え、私ら一番最初が一二名ですが、それがだんだんともうふえて……。

磯津町では、以前センソクの方が多かったという事はありませんか。

F、まあ、全然なかったわけなん

です。そんな者のセンソクという冬場だけで夏向きになると、よくなったわけですが……。なんと四日市センソクという名がついておるわけですが結局は気管支を痛めて、それが重くなって肺の方にこたえていくわけなんですわ。私は今「肺気腫」とも診断されておるわけですが……。

●肺気腫ですね。

F、まあ「肺炎しんとう」という名目がついたらこれはとても。私らとてもこれだけの年も年だしそれでまあ一時発作の苦しみをとめていただくだけが、まあ自由で命があるという、期待は持てんという……。

●おいくつになられましたか。

F、六三ですわ。

●若い時はほんとに丈夫だったんですね。

F、え、まあペンペンで……。

●私の住んでおられます静岡県富士市、富士川町の近辺ですね、だんだん今大気汚染がす、みましてね富士市あたりはいわゆる「四日市センソク」の名をとりまして「富士センソク」ということばがでてきているんですよ。だんだんひどくなってきたおるわけですが。子供あたりには？

F、いや大気受感率は老年と乳幼児で私とこは私の家内と孫二人、四才と二才があるんですが、これ

も二人とも「気管支センソク」と認定を受けておるんですが、一軒で四人もやられておるわけなんです。

●四四〇人の認定患者のうち磯津町の方大勢おられるんですか。

F、八四名やったと思います。いく分か移動はしていますけど。

●それからこうやっていわゆる空気清浄機がついていてもこういう風にあれされても患者さんにとつても季節の変わり目とかガスの濃い時がやはり……。

F、え、これから特にひどいというの、まあだいたい今日は空気が悪いですな。――全部かまれておるわけですね。三菱の工場、合成ゴム、味の素からずつとこうまわっています。西浦、西尾石油、十何社の大きなながあるわけですね。夜の九時頃から続いたらいいたものです。それでまあ百万ドルの夜景だとうたわれて。繁栄といわれておるわけですがなこりやもう東京の方が見えて、私らの在所から見ると東京の景色をみるよりつぱだという。夜になるとそのくらい……。そして又昼間いく分遠慮しておるか、まあ煙も少ないしにおいも少ないんですが、夜なんかになるととてもひどい。そしてまあ国会議員とか大臣が見えろとみんなそういう加減して公害のないようにみせかけ

ておるといのが実情なんです。それはまあ私、去年の一月一日に真田厚生大臣にこういうふうだといって全部写真をお見せしたんですが……。もちろん色々きびしいやつを。請願書も提出したわけなんです。

●夜と昼とはそんなに臭いなんか違うんですか。

F、うんと違う。部屋に入っていると臭わんやけど結局トイレとかそういうところへ行くのに出てかならんので、あけたら最後もうパット、それではとやられるわなまあ敏感というか、そういう風になしてきたわけですね。

●そして今おじさんが言われた様に大体、こういう空の状態とか曇の状況で大体濃度が今日はひどいとか今日は少しはえてなということがみんなにわかるようになってきたわけですね。

F、もうな自分らの体で感じられまますから。

●はあ、そうなんつちやっただね。

F、もう十何か所につけてもらってあるわな。

測定器だね。

F、そんなに測定器よりこちらの方がはやくわかるわな。

●はあ、わかる……。

F、まあ、話があとにもどりますけれども、それでまあ県や市にお願いしても何ら効果がないため

に私らがまあ主体となつて、でもう弱い年寄りばかりにたくとして次の時代をばおうとする現実を捨てておいたらあかんやないかというので、みんなで九名公害訴訟を起こしたわけですが現在一人減つておるわけですが——。それでよく——まあ裁判に出したためによく——政府が腰を上げてくれたという、それからもう国会議員とかもう大臣、鈴木厚生大臣、それから某厚生大臣、それからあと今年の二月一七日は斎藤厚生大臣とこの風に来てはいただくんですけれど、まあなかなかじっくりとは見てもらわせんと三分か五分かちよつとまわつてゆくだけで、まあ、かけあしの状態ですわな。

●ぼくらは今ね、一〇五万キロの火力発電所が近所にできるもんでね。それでも去年から闘つてねまあテレビあたりで見たとするんですけどね。闘争を通じてもう議会とねなぐり合ひして、本当にもう機動隊が何百人とでね。機動隊ともみあつても、まあそれを作つたじやおしまいだということで今やつているんですけどね。

F、千葉とか新潟、それから北九州これはまあ水質汚染ですけどもまあ同じ訴訟をみな起しているんですが、これはみな一つのものやしなしては、これは全国的なもの

やですし、運動を広げにゃああかん。あきらめたらあかんちゅうこと、何通か手紙をいただいでおります。

●さうですね。F、でどちらかというところの四日市は結局患者自身がそのものが一番不幸なものばかりですわ。まあ私、そんなことをいうと知るかも知らんけども、私もつと前ほとんどの人が家庭の保護を受けた人ばかりですな、ほとんどが。まあ、よう見える方からあまりわづらうて見えんという。それが自分の畑でちよつといく分か働くのもおるし、あ、それで工場の中にも潜在患者もおるし、それは重いものは健康保険で。健康保険でもこの病院、だい分何人か入つてるといふたりしましたが、はつきりしません。

●じゃ、あの工場は努めてかくすようにするんでね。F、え、まあだいたいかくすようにするですな。でも私が訴訟を起こして、まあ、丸二年間にありますが——。それをしたためにさうとうなひどい患者にも絶対ここに入院させせんわな。

F、さうですね。一番長い方だともう、四一五年ですね。それでまあ三五六から四〇位の若い衆が四一五人おります。そやけど子供が二、三人もあつてな、でやむえ

ず病気の体をむちうつても、まあ仕事にでてくわけなんです、この病院からね。

●はあ、病院からね。F、それでまあ病院のベットが、えろうあいてるみたいに見えるのも、それがためで——。夕方になるとみな帰つてきて、で朝はよりに漁場だもんで、午前三時中に出て行きます。

●ほお——。F、もう結局この公害におかされておつて、こんだけ四百人や五百人やといつても、なかなかそんなもの潜在患者というものはその何十倍かわかりませんな。もうのどが痛いとか、あてなんやというのはこれももうぬきですわ。もうこの苦しきはまねしてみせるわけにもいきません。けれども結局もう苦しいの苦しくないのと、それをもつとびこえてしまふんですわ。

とびこえてもう失神状態になつてそれでもうそれこそ……。連続状態でよう／＼よみがえるみたいなもんですわ。まあ、そういう生死の境をさまようというじきなものは何回も私もよく入院中に三回や四回やじゃないわけですわな。それで、その苦しみはどうやっていいのかまねもできませんな。もう息がつまってしまうわけですわな

●あのご婦人の方も入院しておられるようですけど、やはり子供

さんやおうちの方は？
F、え、子供三人もある人が入院しとるわけですが、それでもう昼間ちよつときて、悪い夜帰つていつてねたりせにゃならんという……。苦しい立場に追いこまれる時もあるわけです。

●それではあんまり長くなってお疲れでしょう？
F、いいえ、まだあまり詳しいこととでなくて——。

●この病院だけでなく、まだわさの病院にも患者さん入院されておるわけですか。
F、入院は四日市の市民病院にも一六ベット静養棟があるわけです。でいたい四箇所ほどあつて国立病院、そういうところへ行つてみる人もあります。そして現在では四〇名きておりますけれども。空気が汚れたりする日には子供が気が悪くなり、夏場になりますと余計多いものですからベットを多くしてひどい時には両方から寝させになつて寝ます。

●やっぱり空気がよごれてくると子供なんか多いですか。
F、さうですね。五、六、七、八月頃までは丁度こちらを向いて風が吹くわけです。そうするとずいぶんにおいがきますし、空気が汚れてきます。そうすると窓をしめなくてはいけませんし暑い日に気持が悪いですね。

▽後記▽

火力反対運動一周年を期して、期成同盟会々報を発刊、ここに第一号をお届けします。

昨秋農繁期ではありましたが、公害地の視察を行いましたので皆様の感想の一端をのせ、報告いたしました。

日常生活の上に公害斗争をかかえてこんでいる生活のきびしさは、この一年間お互い体験済みではありますが、更にその上に公害病を背負いこんでいる人々の悲惨さを思わなければなりません。そして私たちがその第二、第三の公害病に罹らないと誰れが断言できるでしょうか。

富士市の新情勢も予断を許さない状態です。町民の総力をあつめ、更に新しいアイデアで運動を進めましょう。

なお視察の詳細や、沢山のスライド、現地生の声の録音などは部落巡回によって報告致したく思っています。

火力反対期成同盟会 火電だより係

投書歓迎

火電ニュース、公害写真、運動への御意見など、役場企画課内火電だより係まで